

ひたちなか市教育委員会会議録

平成30年 第12回 ひたちなか市教育委員会 11月定例会 会議録						
平成30年11月14日	開会 午前10時50分	閉会 午後0時30分				
○場 所	那珂湊第三小学校 学童クラブ室					
○出席委員	教育長 野沢 恵子	委 員 石田 厚子	委 員 西野 信弘	委 員 白石 愛子	委 員 石川 拓也	
○欠席委員						
○会議に出席 した構成員	補 職	名	氏 名	出・欠		
	教育次長		福地 佳子	出席		
	参事兼総務課長		井上 亨	出席		
	参事（教育担当）		橋本 清文	出席		
	参事兼指導課長		樫村 嘉通	出席		
	施設整備課長		澤島 恵一	出席		
	学務課長		小澤 功	出席		
	学務課副参事兼保健給食室長		根本 光恵	出席		
	参事兼青少年課長		堀江 貴美代	出席		
	中央図書館長		笹沼 義孝	出席		
	○事務局員	総務課係長		狩谷 智則	欠席	
		総務課主事		及川 茂	出席	
○議 事						
1 報告事項	(1)	平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校基本構想について【公開】				

平成30年第12回ひたちなか市
教育委員会11月定例会会議録

開会 10:50

教 育 長 (あいさつ、開会の宣言)

報告事項(1) 平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校基本構想について

教 育 次 長 統合校の整備につきましては、これまで、4月の定例教育委員会で建築基本設計の概要についてご説明させていただきましたほか、住民説明会の状況のご報告、保護者対象アンケート結果のご説明など、事業の進捗に応じてご報告をしてきたところでございますが、このたび、これまでの検討結果を集約して、統合校整備の基本的な方針について「基本構想」としてとりまとめました。去る11月5日の定例庁議に付議し、市の方針として決定いたしましたので、その概要についてご報告を申し上げます。

「統合校基本構想」の資料をご覧ください。1の「この地区における児童・生徒数と学級数の推移」から、7の「統合校の開校に向けて」まで、7つの柱からの構成としております。

まず、平磯、磯崎、阿字ヶ浦地区の3つの小学校と、2つの中学校について、平成25年度から現在までの児童・生徒数の推移の状況を、それぞれ表と、グラフで掲載をしております。この地域の児童・生徒数は、ひたちなか市の中でも特に減少幅が大きい状況にあります。具体的には、「小中合計人数」とした表がございますが、この地区の小中学生の数は、平成25年度の649人から、現在は538人ということで、111人の減、これは約17%の減少ということになります。市全体では9%ですので、この地域の減少幅は、市平均の2倍近くという状況で推移してまいりました。続きまして、今後の児童・生徒数の見込みを現在の未就学児の実数等に基づき推計しております。来年度以降も減少傾向は続くと想定しておりますが、学校統合により、クラス替えが可能な1学年2学級の学校規模は維持していくことができる見通しです。開校時の児童・生徒数は、500人を超えるくらいになると見込んでおります。

続いて、市全体の小中連携・小中一貫教育に関する考え方について、平成27年度に策定しました「学校教育振興基本計画」などに基づき記載しております。

「統合校の基本方針」でございますが、学校の校種は、9年間の教育を一貫して行う、本市初の「義務教育学校」とするということ、また2021年度に開校することを明記いたしました。学校づくりの目標等につきましては、「統合校のグ

ランドデザイン」としてまとめてございますので、ご確認いただきたいと思えます。9年間を見通したカリキュラムを編成し、この地域の特色を生かした教育を実践してまいります。

統合校の教育の方針でございますが、これまでご説明してまいりましたとおり、4-3-2制の学年段階の区切りによる教育課程の編成、前期課程5・6年生からの一部教科担任制の導入などについて記載しております。また、学校行事のうち、小学校の卒業式、中学校の入学式にあたる節目の時期におきましては、統合校では「前期課程修了式」、「後期課程開始式」として、それぞれ実施する予定です。開校時の部活動につきましては、平磯中と阿字ヶ浦中の現在の部活動を継承する予定です。

統合校の施設整備について、建設地につきましては、「学校位置図」にお示ししております。これまで教育委員会をあげて用地交渉を行ってまいりましたが、このほど地権者全員の方の契約締結が得られる見込みとなりました。次に、義務教育学校の教育成果が十分に得られるよう、こちらに掲げておりますような施設整備の方針のもとに、小中一体型の施設として、安全で機能的な特色ある学校整備を行ってまいります。次に、学校施設の基本設計の概要等をお示ししております。また、これらの施設整備に係る概算事業費は、現時点では、約63億円と想定しております。

統合校の通学の基本方針についてご説明いたします。地図を掲載しておりますので、併せてご確認ください。統合校への通学につきましては、児童・生徒の安全を最優先に検討を進めてまいりました。他の市町村では、学校統合等に伴う遠距離通学への対応といたしましては、スクールバスを運行する例がほとんどですが、この地域には湊線が運行されており、平磯、磯崎、阿字ヶ浦の各地域には、それぞれに駅が設置されておりますことから、学校のすぐそばに駅をつくり、徒歩と湊線を主体とする通学方法を基本方針といたしました。(2)は、比較的遠距離の通学となります阿字ヶ浦の「原地区」について特出ししております。現在も学校まで2.5kmほどの距離があり、小学生は路線バスで登校し、中学生は自転車通学が許可されています。原地区につきましても、小、中学生ともに、阿字ヶ浦駅からの湊線利用を通学の基本とし、原地区と駅との間については、安全性の観点から、自転車通学ではなく、路線バスやスマイルあおぞらバスを活用することとしました。また、(3)湊線を利用した場合の費用負担につきましては、学校統合による湊線の利用は、教育政策による新たな通学方法となることから、市が負担することを基本といたします。

今後、統合校の円滑な開校に向けて、新しい学校の校名などにつきましては、地域を中心とした「開校準備委員会」を新たに立ち上げ、検討してまいります。また、教育活動に必要な制服や教育用品、さらには学校行事やPTA活動はじめ、

様々な事項について、きめ細かい調整やすり合わせを行ってまいります。(4)今後のスケジュールでございますが、現在取り組んでおります「学校施設の詳細設計」に基づきまして、来年度から2ヵ年をかけて学校施設や通学路等の工事を進めてまいります。また、今回、統合校の「基本構想」をお示ししたところですが、来年度にはさらに具体的な「実施計画」を策定し、3年後の2021年度の開校に向けて、取組を進めてまいります。

説明は以上でございます。

【質疑、意見等】

石川委員 資料の中に、平成36年度までの児童・生徒数の見込みが示されており、平成31年度と平成36年度を比較して、児童数は45名の減、生徒数は4名の減で合計49名の減の見込みとなっておりますが、教育委員会ではその後何年度くらいまでの推移を掴んでいますか。

教育次長 この見込みにつきましては、現在の統合校エリアの未就学児の人数に変化がなく、そのまま統合校へ入学することを想定したものであり、今回は平成36年度までのものを推計し、お示ししております。毎年5月に、各学校において児童・生徒の推計を行っておりますが、統合校エリアの児童・生徒数は少しずつ上向きになってきております。以前の推計では、統合校開校時には児童・生徒数が500人ちょっとという見込みでしたが、最新の推計では518人となっております。阿字ヶ浦地区は、市でも区画整理を行っており、新しい住宅が建ったり、人口の減少傾向が抑制されてきています。また、統合校という魅力ある学校ができることで、若い世代の方が増えることも想定されますし、そのように選んでいただける学校を作っていきたいと考えております。

石川委員 1学年2学級は維持していくことができる見通しなのですね。もう1点、統合校への通学方法として湊線の利用を想定しているとのことですが、利用にあたっての距離の基準はどうなっていますか。

教育次長 小学生は1.5km、中学生は2kmを徒歩通学の標準的な距離としておりまして、この距離を上回る場合には、最寄の駅から湊線を利用することとしています。ただし、1.5km圏内であっても、湊線を利用した方が便利だという方は、希望すれば湊線の利用は可能にしたいと思っております。

学務課長 資料の「統合校通学基本方針図」で示しておりますが、開校時の湊線の利用者は阿字ヶ浦小で124名、平磯小で240名という推計です。

石川委員 徒歩通学の標準的な距離を越えている方の中で、湊線を利用したくないという方がいる場合には、どのような対策を取りますか。

学務課長 そのようなことにならないよう、これまでも地域に説明をしてきたところですが、保護者の方からも、安全対策を充実させてくれというご意見をいただいております。

すので、開校までに十分に対策を取り、ご理解いただけるよう、話し合いをしながら進めてまいりたいと考えております。

- 石川委員 保護者の方には、説明会の中でご理解いただけている状況ですか。
- 学務課長 全ての方という訳ではありません。現在、阿字ヶ浦の原地区から阿字ヶ浦中までは自転車通学が認められているので、中学生では自転車通学を許可してほしいというご意見もあります。しかし、通学ルートが変わることにより、阿字ヶ浦駅までの通学路の安全の確保が難しいことや、その他の地域では自転車通学を認めていないことから、引き続き、安全対策を充実させることをご説明し、一定のご理解をいただきたいと考えております。
- 石川委員 中学生は部活動があるので、通学方法がネックとなる部分があるかと思えます。
- 学務課長 部活動後の下校時間は18時頃になるかと思いますが、湊線は3～40分に1本は運行されております。また、原地区からの通学者については、阿字ヶ浦駅からはスマイルあおぞらバスや路線バスを活用することとし、本数を増やすなどの対応をしたいと考えています。
- 石田委員 平磯小区からは240名の方が湊線を利用する推計とのことですが、その人数が通学の時間帯に一斉に湊線を利用することは可能なのですか。
- 学務課長 現在のところ、2両での運行を予定しており、平磯駅からの区間は比較的空いておりますので、対応できると考えています。今後、予算が確保できれば、開校前に、児童・生徒に実際に湊線に乗ってもらうことも考えています。実際に240名が利用した場合にどうなるのか、という部分は、湊線の担当者ともよく協議をして、対応していきます。
- 石田委員 湊線では交通系ICカードは利用できますか。
- 学務課長 勝田駅以外の湊線の駅では利用できません。
- 石田委員 通学に湊線を利用する児童・生徒には定期券等を配布するのですか。
- 学務課長 パスのような物を配布し、それを見せて構内に入場することを想定しています。
- 西野委員 開校は2021年度ということですが、時期は4月ですか。
- 教育次長 4月で考えております。
- 西野委員 そうすると、近いうちに着工する予定ですか。
- 教育次長 現在、詳細設計を行っている段階であり、今年度末に設計が完成する予定です。着工は来年度の予定ですが、金額が大きいので、契約案件として市議会の承認を得てからの着工となります。
- 施設整備課長 遅くとも来年度の9月市議会には、この契約案件を議案として提出しようと考えております。9月市議会で承認が得られれば、2021年4月には開校できる見通しです。
- 白石委員 那珂湊中学区に住んでいる方で、希望して阿字ヶ浦中などに通っている方が現状でも何名かいると思いますが、統合校ができたときに、新しい学校ということ

で学区外からの通学を希望する方が出てきた場合、湊線利用の補助の対象になりますか。

学務課長 区域外からの通学は、原則として保護者の送迎を条件としております。

教育長 (暫時休憩の宣言)

* 暫時休憩の後、那珂湊第三小学校共同調理場の視察、校内の見学、給食の試食を行いました。

閉会 12:30